

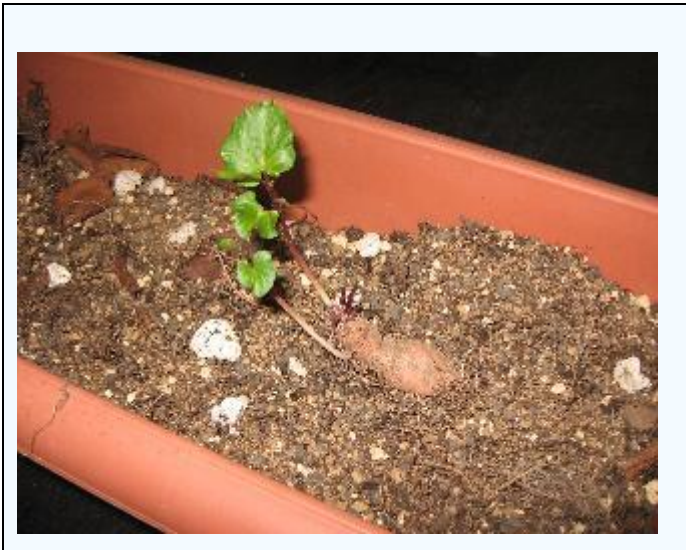
テーマ：『 中学校理科・生物分野における、生物教材の開発・利用』

横須賀市立 武山中学校

Tel. 046-856-1287

担 当 丹澤 芳明

者：



■実践内容：

中学校の生物分野における学習は、補助教材として映像や資料による「視聴覚教材」でイメージをつくり、補助プリントのようなもので理解、定着をはかっていく方向になりがちである。一方で、生徒の直接体験の不足などあって、学習前の予備知識不足や生物の名称すらわからないといったことがおこることもしばしばである。そこでより理解、定着をはかるために実物を扱いながら授業を組み立てていくことを考えた。

1年・植物分野においては光合成量が多いといわれるサンパチェンスを各学級で栽培し、身近に感じさせつつ教材化したり、その他の教材となりうる植物を理科室等で栽培することで利用しやすくしたり工夫した。2年・動物分野においては豚の心臓や眼球、肺などを教材化したり、動物の分類では5種類に分類される脊椎動物及び数種類の無脊椎動物の実際の生物を観察しつつ、その特徴をまとめて分類の学習の定着に役立てた。3年・生殖と遺伝においては、1昨年よりの継続研究であるウニの受精をとりあげて教材化した。

■実践成果：

どの教材においても生徒の理解、定着は目に見えて向上した。実際に観察することはまさしく「百聞は一見に如かず」ということではないかと思われる。相当インパクトが強いらしく、生徒の感想をみても「よくわかった」、「理解しやすかった」という声が多かった。覚えることを苦手にしてきた生徒の中にも、これは印象に残っていてしっかり覚えた、という声もあった。また、ウニの受精においては、保健分野や道徳分野にもつながるプラスの声も上がってきており、おおむね良い取り組みだったと思われる。

しかし課題点もかかえている。授業後の生物や教材の処理や維持・管理が難しいうえ、費用もかなり大きい負担となる。また、安全衛生面の配慮や生徒によっては拒否感を示したり、アレルギーがあつたりする場合もある。これらの幅広い配慮や教材化への工夫がかなり大きな負担となる。これからさらに研究して、よりよい教材の開発を目指していきたい。

■実践ポイント：

生徒の興味関心を高め、継続させていくことが学習し続ける力になる。教師側のより前向きな姿勢と生徒に与

える安心感をしっかりもたせて実践していきたい。